

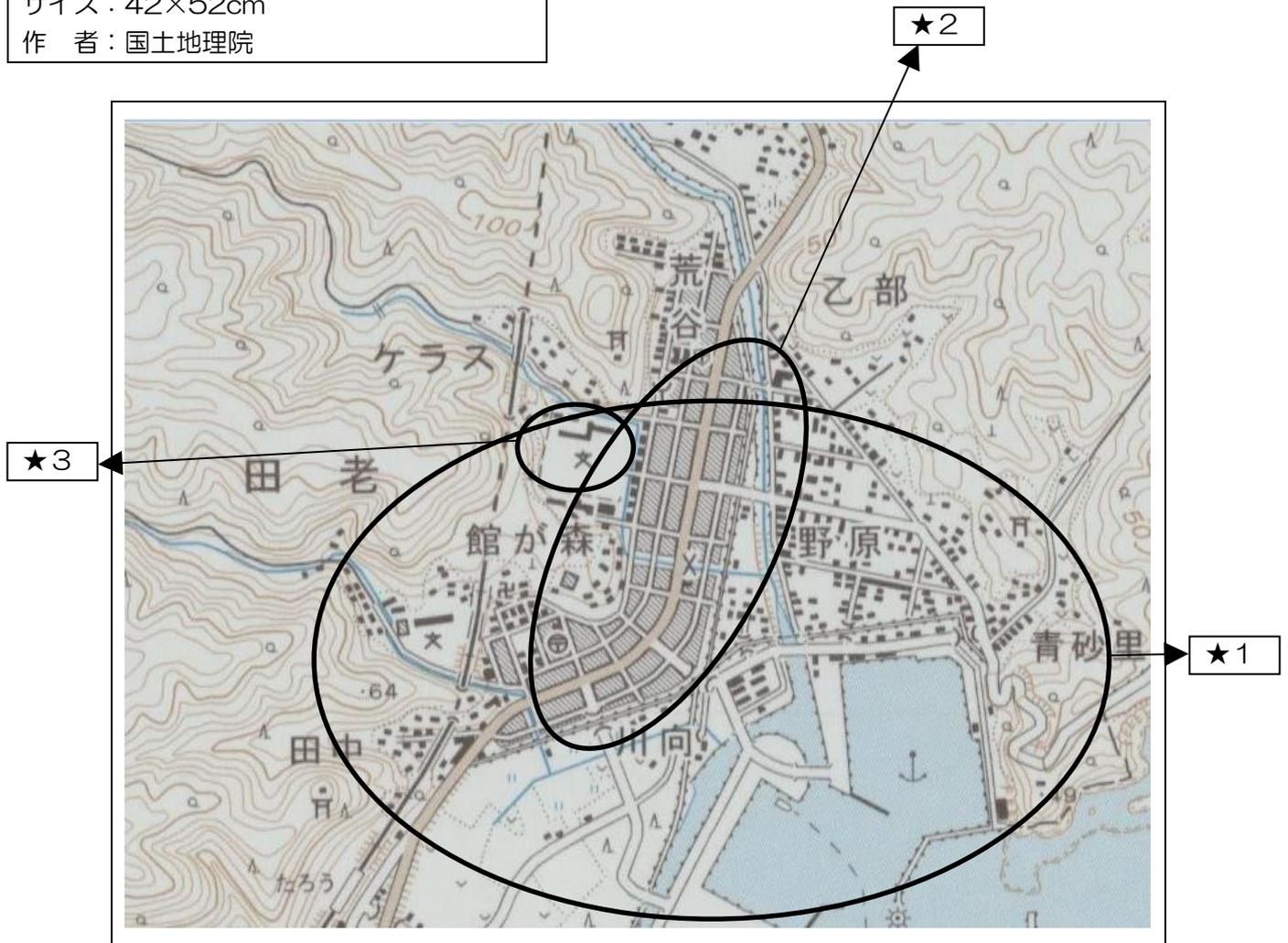
授業で使える当館所蔵地図

No. 73『2万5千分の1地形図 田老』

作成年：2005（平成 17）年

サイズ：42×52cm

作 者：国土地理院



【解説】

岩手県宮古市田老地区は、「津波太郎」と呼ばれるほど、歴史的に繰り返し津波の被害にあってきた。その中で、世界最大級の防潮堤や町の各所に避難路を整備し、津波防災のまちづくりを進めてきたことを読み取ることができる。しかし、東日本大震災により甚大な被害を受けた。これらを活用して、一人一人の防災意識の大切さを考えていく。なお、この地図は震災前の2005年に発行されたもので、その後、更新されていない。最新版が発行されれば、両者を比較することで、震災後のまちづくりへの理解をさらに深めていくことが期待できる。（国土地理院のホームページでは最新地図の閲覧は可能です。）

★1 世界最大級の防潮堤

1896（明治 29）年の明治三陸大津波と 1933 年（昭和 8）年の昭和三陸大津波により壊滅的な被害を受けた田老地区（旧田老町）。これを受け、防潮堤の整備は昭和三陸大津波の翌年から始まり昭和 54 年に整備が完了した。町全体を囲む総延長 2,433 メートル、高さ 10 メートルの長大な防潮堤はかつて「万里の長城」と呼ばれていた。

★2 まっすぐ伸びる避難路

市街地は碁盤目状の道路整備を行い、町内どこにいても山に向かって真っ直ぐ避難できるような町並みとなった。また、交差点の隅切りにより見通しを改善し、安全に避難できるようにした。避難路や誘導標識の整備も進め、停電時でも、夜間に目印になることを想定して、太陽光発電式照明灯などを整備した。

★3 津波記念碑

三陸沿岸各地では、たびたび大きな災害をもたらした津波の襲来を記録した碑が残されている。その形態は様々。死者・行方不明者を慰霊するもの、津波の最高到達位置、避難喚起など、後世への教訓が石碑や防潮堤の形で建てられている。田老地区でも、田老第一小学校西側に 1933（昭和8）年の津波記念碑が建てられ、津波に備える以下の文面が刻まれている。「大地震の後には津浪が来る／地震があったら此処へ来て一時間我慢せ／津浪に襲われたら何処でも此の位の高所へ逃げろ／遠くへ逃げては津浪に追付かる／常に近くの高い所を用意して置け」

【用語について】

・岩手県宮古市田老地区

田老地区は岩手県の太平洋沿岸中央部にあり、海岸線は起伏により形成された断崖が連なる外洋に接している。2005（平成 17）年に宮古市、新里村と合併して宮古市田老地区となっている。

・東日本大震災

東日本大震災は、2011（平成 23）年 3 月 11 日 14 時 46 分頃に発生。三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東 130km 付近で、深さ約 24km を震源とする地震であった。マグニチュード（M）は、1952（昭和 27）年のカムチャッカ地震と同じ 9.0。これは、日本国内観測史上最大規模、アメリカ地質調査所（USGS）の情報によれば 1900（明治 33）年以降、世界でも 4 番目の規模の地震である。

【利用の例】

○田老地区の津波対策について考えることができる。

→小学校学習指導要領「社会編」第 5 学年の内容（5）を受け、自然災害から国土を保全し国民の生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを学ぶ。

田老地区の地形

田老地区は、岩手県の中でも太平洋側に面している場所に位置しているな。



田老地区の津波の歴史

田老地区は、明治三陸大津波や昭和三陸大津波など、昔から津波の被害にあってきたんだな。

【本時の学習】

田老地区は、海に面していて昔から津波の被害にあってきたから、防潮堤や避難路をつくったりして、被害を減らそうとしたんだな。

2011（平成 23）年 3 月 11 日 東日本大震災

【次時の学習】

さまざまな津波の対策をしてきたのに、田老地区では大きな被害が出てしまった。どうして、こんな被害が出てしまったのだろう。

【単元の出口】

日本では、さまざまな自然災害が起きていて、国土の地形や気候とかかわりがあることが分かりました。また、国や都道府県などでもさまざまな防災の取組をしていました。自然災害が発生しやすい日本では、一人一人の防災意識を高めることが大切だと思いました。